



定期的な検診が早期発見・治療につながる

40歳代の乳がん検診が新しく 症状がなくても検診を

乳がんの早期発見を目指し、40歳以上の女性を対象に2年に1回の検診を実施しています。本年度からは、40歳代の方に向けて超音波検査を追加。今までの検査と組み合わせることで、毎年の検診が可能となります。

40歳代は毎年の検査を

乳がんは、女性の9人に1人がかかるといわれる身近な病気です。自覚症状が少なく、30歳代後半から発症のリスクが上昇します。昨年、市の乳がん検診を受診したのは約5千人。そのうち約6%の方が「疑いあり」と診断され、16人にがんが見つかりました。早期発見・治療につながるため、本年度から超音波検査を新たに導入。以前から実施している乳房を圧迫板に挟み、エックス線で撮影するマンモグラフィと併せ、幅広い検査が受けられるようになりました。

新しく追加した超音波検査は、超音波を使って乳房にしこりなどの異常がないかを調べます。40歳代の方が対象で、前年度にマンモグラフィを受けていることが条件です。マンモグラフィではしこりだけでなく白い点や粒のように映る石灰化なども見つけられます。二つの検査を1年ごとに受診できるため、乳房の状態を異なる角度から定期的に確認できるようになりました（左欄参照）。

市乳がん検診の種類と特性

■マンモグラフィー

乳房を片方ずつ圧迫板に挟み、エックス線で撮影。一部にカルシウムが沈着する石灰化の発見に強い。

対象 40歳以上の女性

費用 【個別】

40～49歳＝2100円
50歳以上＝1600円

【集団】

40～49歳＝1800円
50歳以上＝1300円

■超音波検査 新規

超音波を当て、マンモグラフィーでは見つけにくいしこりを見つける。乳腺の発達した若い世代に有効。

対象 前年度に市が実施したマンモグラフィーを受診した40～49歳の女性

費用 1900円

いずれも実施医療機関または健康医療課へ。受診の制限あり。市が実施するがん検診の詳細は市HPに掲載。



詳細はこちら

自分の健康と向き合う

とうめい厚木クリニックで非常勤医師を務める黒田貴子さんは、「自覚症状がないうちに見つけられれば治療の確率は高まる。『自分は大丈夫』と思わず、毎年の健康管理の一環として検診を受けてほしい」と呼びかけます。

検診は、胃がん、子宮がん、肺がんなどでも実施。6月に対象者に向けて受診券を送付しています。受診方法は、ふれあいプラザで受ける集団検診と各医療機関で受ける個別検診の2種類です。生活に合った方法で、選択が可能です。

この他にもがんと診断された人が安心して治療と生活を両立できるよう、医療用補整具の購入費用なども助成（左下欄参照）。検診による早期発見から治療中の生活まで、がんと向き合う人を支えています。

10月は乳がんの正しい知識や早期発見を呼びかける「ピンクリボン月間」です。自分の体を見つめ直し、未来の健康につなげましょう。

健康医療課 ☎ 25-2201